

3年1組

思いを寄せて

～ツムピーをきこうとする中で わたしになっていく～



4度目の交流を終えて



昨日2月15日(木)、マリアこども園へ4回目の校外学習に行ってきました。ツムピーとこはくをマリアこども園に引き継ぐことを決め、今回はお世話の仕方や私たちが大事にしてきたことを伝えるための「ツムこはまつり」を開催しました。Kさんの、「普通のアヒルのことは本を見れば分かるから、ツムこはだけの情報が載ったツムこは図鑑をつくりたい」という言葉をきっかけに、今までツムピー、こはくと一緒にくらしてきた私たちだからこそ分かる事、伝えられる事は何か考え、準備を進めてきました。ツムピーとこはくの好きな食べ物や触れると落ち着く場所、今まで行ってきた小屋そうじの手順などを、楽しみながら学べるゲームや図鑑にしてまとめ、紹介しました。ゲームを通して何を伝えたいのか説明する姿、園児の目線に合うように膝を曲げて話す姿、正面に立つのではなく園児の隣に立って同じ目線で一緒に活動する姿、不安にならないよう励ます姿。そんな子どもたちの姿勢、目線、言葉えらびに、一生懸命伝えようとする思いを感じました。『準備したセリフはなくなって、そのかわり作った文じゃなくて、自分の今の言葉で伝えた』と教えてくれたAさん。その通り、一人ひとりが目の前の園児に合わせて自分の言葉で伝え、活動していました。そんな子どもたちの話を一生懸命聞こうとする園児もまた、子どもたちの伝えたい気持ちをしっかりと受け取ってくれているように感じました。

- ・今日の交流のとき、ようち園のこたちがしっかり私たちの「目」を見て話を聞いてくれました。そのあと、一人の女の子が「アヒルいいね」と言ってくれて私はとってもうれしい気持ちになりました。幼稚園生のみながツムピーとこはくをもっと知ってくれたらいいな！ツムピーとこはくをもっと大好きになってほしいな！そんな気持ちで準備しました。今日はツムピーとこはくが大好きな人が増えたと思います。このマリアこども園の全員がツムピーとこはくを大好きになってしあわせになれるのが今の私の願いです。(TMさん)
- ・マリアこども園に4回目の交流に行ったよ。幼稚園生の顔を見て本当にこの子たちでよかったと思った。幼稚園生が笑って嬉しかった。ツムピーとこはくの天敵を覚えてくれたのかな、と思って私も嬉しくなったな。この子たちなら預けられるなって思った。(AMさん)

一生懸命活動した達成感や園児に伝わっているのではないかという手ごたえを感じることができた子どもたち。今回、一緒にマリアこども園に行ったツムピーとこはくは学校に戻らず、1泊だけお試しステイしています。Tさんは下校の際に「もうツムこはに会いたい。大丈夫かな」と呟いていました。他にも、1日だけでも預けることに「不安」や「さみしさ」を語る子どもたち。そんな子どもたちの姿を見て、伝えても伝えても安心することはないのかもしれないと感じました。手元から離れても考えずにはいられない、見えないツムピーとこはくに思いを巡らせているからこそ、今までのツムピーとこはくとのくらしがあるからこそ感じられる、不安です。

「意味のある『分からない』だと思おう」

2月21日(水)、最後の参観日に向けての話し合いでRさんが「僕たちがツムピーを迎える前にNさんが『動物飼って何の意味があるの』って言ってたじゃん。だから今までツムピーとこはくを育ててきて自分の思う意味を発表すればいいんじゃない」と提案し、一人ひとりスケッチブックに自分の思う意味を書く時間を作りました。授業の最後にRさんが、『アヒル飼って何の意味があるの』って言ってたNさんが何て書いたのか知りたい」と発言し、Nさんに聞いてみました。しばらく黙っていたNさんは、小さな声で「分からない」と答えました。するとHさんは手を挙げ、「Nちゃん分かんないって言ったけど、でもさ、お別れするの悲し

いなくて思ったりさ、最近Nちゃん朝お世話に来るようになって前と変わったじゃん。それってNちゃんの中に意味があるからだと思う。だから『分からない』って言うけど意味が無いじゃなくて、意味のある『分からない』だ」と話し始めました。そんなHさんの話を聞いて「ああ、確かにNさん変わったよね。前はあんまりお世話来てなかったけど最近毎日来てるから、変わったってことは何か意味あるからだよね」と続くKさん。この時間、子どもたちは一生懸命考えながら、わたしなりの「動物飼って何の意味があるの」の答えをスケッチブックに綴っていました。それでもNさんの「分からない」という言葉を否定する子は一人もいませんでした。また、授業後には、Tさんが「私は『意味』じゃないと思うんだよね。意味じゃなくて、私たちがもともと持っている力を、ツムピーとこはくが引き出してくれたんだと思う」と話してくれました。

Nさんの「分からない」を分かっていくHさんや子どもたち。ツムピーとこはくとの暮らしが無かったらこの姿には出会えていなかったのではないかと思います。ツムピーとこはくの事を分かろうとしながら、そして、自分と違う考えの友だちのことを分かろうとしながら、ツムピーとこはくのために私たちなりの答えを見つけて進んできたからこそこの姿だと感じました。また、自分の良さをツムピーとこはくがより引き出してくれたというTさんの言葉に、私は、共感すると共に私自身の思いにも気づかせてくれました。もしかしたら飼う「意味」を文字や言葉にさせてしまうことで、これまでのくらしで感じてきたたくさんの言葉にできないような豊かな情操を奪ってしまわないかと不安だったのです。しかし、この日の子どもたちのように、一人ひとりの言葉から、その背景に目を向け、お互いを価値づけながら、改めて自分たちのくらしの良さと成長を自覚していきたいと感じることができました。

参観日当日は、「緊張する」と言いながらも一生懸命発表し、「自分の言いたいこと言えて良かった」「みんなの発表聞いてすごいと思った」と語る子どもたち。私は今までも、今回も、何度も何度も子どもたちに学ばせてもらっているなと感じます。



離れても大好きだよ

3月11日、マリアこども園にツムピーとこはくを送り届けてきました。

今日ツムピーとこはくのお別れでした。とても悲しかったけど、マリアこども園の子たちにしっかり伝えられました。最初は絶対に預けたくなかったけど、あとからマリアこども園の子たちがしっかり育ててくれると思えたから、ツムこはを預けました。子どもたちとも、とても仲良くできました。これからずっとツムピーとこはくのことを育ててくれてありがとう。

ツムピー、こはくへ。お別れする前も大好きだし、離れても大好きだよ。ツムピーとこはく、いつもありがとう。マリアこども園でも仲良く、元気に暮らしてね。こはく、たまごを産んでくれてありがとう。ツムピー、けっこんしてくれてありがとう。学校来るのがもっと楽しくなったよ。ツムピーとこはく、お別れしても忘れないよ。ツムピーとこはく、2年間ありがとう。今までありがとう。大好き。(Nさん)

上記は、毎朝ツムピーとこはくのお世話を欠かさず、学校がお休みの日もよくツムピーとこはくに会いに学校に来ていたNさんの振り返りです。泣いたり悲しんだりするわけではなく、ただただ静かに、スケッチブックに思いを綴っていました。Nさんの「離れても大好きだよ」という言葉から、近くにいなくても、Nさんのツムピーとこはくへの思いはこれからも変わらないのだと感じました。他の子どもたちの綴った言葉も、「私の心の中にはまだ2羽がいる」「ツムピーとこはくとの思い出は私のたからもの」「これからもツムピーとこはくの幸せをもっと考えたい」と、目の前に居なくても一人ひとりの心の中にツムピーとこはくが居ます。だからこそ、前を向いていける。そして、「ありがとう」と感謝の気持ちが溢れてくるのではないかと思います。ツムピー、こはくとの今までの暮らしや、たくさん考えて話し合ってきた時間、友だちと一緒にお世話をしてきたことが、これからの子どもたちの支えとなっていくのではないかと思います。この子たちと、ツムピーとこはくと共に過ごした時間は、かけがえのない本当に幸せな時間でした。

